

「大子学」について

～ 大子で学ぶ 大子を学ぶ 大子のために学ぶ 自分のために学ぶ ～

1 大子学とは

義務教育9年間で児童生徒がふるさと大子に対する思いを深め、ふるさと大子の今を見つめ、これからの大子町やこれからの自分に対する思いを新たにすることは、今、とても大切なことである。

また、大子町には、自然、歴史・文化、偉人、観光、産業などのすばらしい地域素材や地域体験の場があり、それらを系統的に学ぶことも重要である。

「大子学」とは、大子町で生まれ育つ子どもたちが、保護者や地域の温かな人々と交流しながら、体験を通して、地域について学び、地域について発信し、ふるさとに誇りを持ち、さらには、自己の生き方についても考える学習である。

内容について、「大子学のすすめ」を用いながら各学年「総合的な学習の時間」等6時間程度を使い、これまで取り組んできた内容を活かし、各教科や領域との関連も図りながら進めることになるが、具体的な指導については、各学校において定めるものとする。

2 大子学のねらい

【地域に対する理解・関心・愛着】

大子町の自然、歴史・文化、偉人、観光、産業などに対する理解と関心を高め、大子町に対する誇りと愛着を育て、ふるさと大子を大切にしようとする心を育む。

【地域社会の一員としての自覚】

大子町の様々な立場の人々と交流し、体験しながら学ぶことを通して、好ましい人間関係や地域社会の一員としての自覚を深め、自分の役割や行動について振り返り、よりよい大子町を創ろうとする自主的、実践的な態度を養う。

【勤労観・職業観】

大子町を基盤とした様々な地域の特産物や産業に触れる体験活動を通して、自分の将来について夢を持ち、主体的に進路を選択する能力や態度を育てる。さらに、望ましい勤労観や職業観を育み、努力しようとする心情を育む。

【思考力・判断力・表現力・問題解決能力】

学び方やものの考え方、表現の仕方を身に付け、問題解決的に主体的・創造的に学ぶ能力を育む。

3 年間指導時数

各学年（小学校1年生～中学校3年生）、年間6時間（各学期2時間）程度